箱根接待茶屋の森づくり協議会発足

去る12月22日、箱根山組合より委託された接待茶屋及び周辺10haの森を、間伐、ササ刈り、苗場の開設、植樹、植生調査、自然観察会などを進め、青少年の学びの森、市民の健康増進の森となるように、森づくりを進める「箱根接待茶屋森づくり協議会」の設立総会が開かれた。

「接待茶屋」は、文政七年（一八二四年）から昭和四五年（一九七〇）までの、一時期を除き、東海道を行き来する人々に一時の安らぎを与えてきたが、それは県境・箱根峠に程近い、国道一号沿いにあった。

この「接待茶屋」周辺の森を、地域住民の手で「災害防止、水源機能の高い、生物多様性豊かな森づくりを行う」（協議会の目的）ため、三島市役所会議室で、「箱根接待茶屋の森づくり協議会」の結成総会が開かれた。

協議会の結成を呼びかけたのは、「箱根山の森林を守り育てながら、森で活動を楽しむ」ため、七年前に結成された「みしまフォレストクラブ」（宇尾正久会長）。「会の目的達成には、安定・継続して活動できるフィールドが不可欠」と、三島市外5ヶ市町・三島市外3ヶ市町箱根山組合等に、（両団体共、管理者は小池三島市長）森林の使用を働きかけてきた。その結果、①区域が故鈴木昇氏からの無償返還地であるため、返還時の要望・意向に沿った整備とする（いわゆる公園化はしない。極端の樹種転換は望ましくない）。②協議会を設立し、補助事業のなかで活動・整備を行う。借地ではなく無償利用とする。③整備完了後の管理は、協議会で行う。・・・等の「利用条件」の下に、両箱根山組合にまたがる10haの利用が許可された。

12月22日、設立総会（フォレストクラブ提供）

また、両団体の事務局を担う加藤副管理者は、「5ヶ市町組合議会で、新年度予算が可決されると、ボランティアの皆さんの現地までの交通費や保険料に見合う額などを補助金として支出する」と言う。

結成後の森づくりの作業は、ゴミの除去、ササ刈り、林床の整備、間伐等が予定されている。

結成総会には協議会に参加する、三島連合勤労協・三島緑の会・市内四地域のエコクラブ・三島温暖化防止協議会等13団体の会員・個人60人が参加。小池三島市長も来賓として祝辞を述た。

役員には4月の第1回総会までの暫定措置として、会長にフォレストクラブ会長の宇尾正久さんらを選出した。

箱根山組合にとっては、住民との協働事業は初のケースであり、各方面から大きな成果が期待されている。

交差点

学カテスト、文科省は全廃せよ！

いわゆる、文部省学カテストが実施されたのは、1961年秋、今から48年前だ。

私は、この年、33歳で静教組三島支部長（三島市教職員組合委員長）になったばかりの青二才だった。勤務評定反対闘争・60年安保闘争と烈しい大運動の続いた直後で教職員組合は勿論、大部分の労働組合をはじめとする国民的運動が盛り上がっていた。

こういう時代背景の中、日教組が全国的に展開した学テ拒否の反対闘争に当面した。静岡県教組は、学テ反対闘争委員会を作って「実施拒否」を展開した。

拒否闘争を行えば、「支部長も逮捕されるだろうからその覚悟と用意をするように」との指導も上部機関から伝達された。

三島支部はその時、組合員が強かった。全員学習会・地域連帯反対組織化などが成功して県内では尤も強く闘える状態になっていた。にもかかわらず、全県的には崩れてしまって拒否闘争は遂行できなかった。文部省学カテストは、その後様々な問題を引き起こして中止された。愛媛教育残酷物語り」という本が発行されて有名になったが、文部学テはその一つの原因になったのだと評価された。

その当時の文部省は、このような事態について何も反論し得なかった。

今日、教育基本法は改悪されてしまった。上からの圧力支配はすざまじく、30年近い前に退職した私などには考えられない状態を現場の教員の方々からお聞きして驚く。

私と一緒だった真面目な、かっての同僚青年教師の方々の多くは、定年前後の年代だが、肉体的や精神的な病に倒れるのを耳にする。

静岡県内には、若い教師が自殺してしまうことさえおきており、それは特殊な事ではないようだ。勿論、教育界内部だけが原因ではなく、日本社会全体が陥っている異常な社会環境も作用しているのだろう。

国民は、「何とかしてもらいたい」と、自公政権を瓦解させた。しかし、民主を中心の連合政権でどうなるか？教育基本法改悪後、上から持ち込まれている様々な悪しき教育関係の手直しが大事だ。諦めないで要求して変えさせよう。その、一つ。「文科省学力テスト全廃」

（Y・Y）

— 三島暦 —

再々読 定位置に戻す『羊の歌』加藤周一不在の一年

悲惨なのに何故（なにゆえ）にか美しいサルガドの写すアフリカ日暮れる

ヤンソンスの指揮棒空（くう）をとどめ差し『革命』終曲年暮れるなり

黄梅を挿せるいびつな壷ひとつ澄みし除夜なり年あらたまる

かのとのい立待月で明けるなり三島暦の睦月一日（ついたち）

浅野　和子

原発はいらない⑬
原発クイズQ&A

みしま原発を学ぶ会

問1・原子力発電がないと電力が足りないでしょうか？

問2・原子力発電所では発電時に使用した蒸気を多量の海水で冷却しますが、海に戻される温排水は元の海水より何度上昇するでしょう？
①7度 ②15度 ③30度

問3・電力中央研究所の発表では、100kWhの発電をするごとに太陽光は53g、風力は29gの二酸化炭素を放出する（建設・輸送・運用・保守等全てのエネルギーから放出量を算定）のに対して原子力は22gで済むとされています。これが正しいかはさておいて、原発から出る膨大な温排水によって、海から放出される二酸化炭素はおよそ何gになるでしょう？
①二酸化炭素は出ない ②20g ③100g

問4・放射線をどのくらい被ばくすると体に悪いでしょう？
①微量 ②5ミリシーベルト ③30ミリシーベルト

問5・原発事故の責任を取るのは誰？

《解答と解説》

問1・NO
真夏の需要ピーク時でも原発以外の発電所でまかなえます。

問2・①7度
一秒間に70tの水を引き込み、7度温めて戻します。普通風呂は40度前後ですが、7度高かったら熱くて入れません。原発は「海温め装置」と言われています。奇形の生物も見つかっています。

問3・③100g

問4・①微量
放射線が生物に与える影響を何十年も研究しているアメリカのBEIRは「これ以下ならば安全という値はなく、最小限の被ばくでも人類に対して危険を及ぼす可能性がある」と報告しています。

問5・原子力施設の運転中に発生した事故により原子力損害を受けた被害者を救済するため1961年に定められた原子力損害賠償法は、「原子力事業者に無過失・無限の賠償責任を課すとともに、その責任を原子力事業者とする。」とし、損害賠償保険への加入等の措置を講じることを義務付けている。商業規模の原子炉の場合の賠償措置額は600億円だが、これを越える場合は国が被害者保護のために必要な措置をとることになっており、最後は国民の税金でよろしく！ということ。

ある野戦重砲兵の物語⑥

秋元　実

貧乏国日本は、第一次世界大戦後、欧米の各国が軍備の近代化を急ぎ、単発の小銃を連発のマシンガンに変えて行ったのに、財力がないので昭和二十年夏の敗戦まで、わたしたち全軍の兵隊に、明治三十八年製の単発長大銃、一発ずつ遊底を動かして撃つ、いわゆる三八式歩兵銃を持たせて戦わせました。

砲兵もまた機械化に遅れ、多くの山砲・野砲・重砲部隊が、牽引車でなく馬に火砲を曳かせる競馬砲兵として、米英の俊足の機動砲兵と戦わされたのです。

当時、日本の野戦重砲兵連隊の十五榴は、ほとんど馬で曳く大正四年製の四年式でしたが、ありがたいことに、わたしが入隊したとき、三島の野重三は、編成の半分の第一大隊だけが当時では最新式だった昭和十一年（皇紀二五九六年）製の九六式十五センチ榴弾砲に変わっていて、わたしたち新兵は第二大隊に起居しながら、それで訓練を受けて、九六式でビルマで戦闘中の本隊の補充要員として、軍馬とは関係なく、戦地へ行けたのでありました。

昭和十七年一月二十五日、中部第十部隊に入隊したわたしたちは、砲手班と自動車班に分かれたのですが、わたしは砲手班に入れられ、三か月間、九八式六トン牽引車で曳く九六式十五榴操作の基本的訓練でしごかれました。

機械化された火砲とはいえ、二十キロもある弾丸を抱えたり、教官の鬼軍曹の命令で重い脚を持ち上げたりして操作する、重量五トンの九六式十五榴は、貧弱な体力のわたしにとって、演習で血尿を出すほどのイヤな相手でありました。

わたしたちは、三か月間の教育召集で入隊したので、それが済めばなつかしのわが家へ帰れるはずだったのですが、わたしの場合は、そうはいかなかったのです。

同時に入隊した三百六十名のうち、召集解除で帰郷できたのは三百名で、六十名が戦闘中の野重三の補充要員としてビルマ行きとなり、その中に、戦争と軍隊が何より嫌いだった文学青年のわたしが入っていたのでありました。

（つづく）

＜蕎麦処＞
いな穂
三島市谷田中島70-8（押切り入口）
「箱根水系押切りそば」
そば定食　600円
かけざる　400円
主人：古瀬　喜久男
電話：080-3075-8381

楽々パソコン教室のご案内
毎週水曜日　夜
生涯学習センター
5F（パソコン教室）
午後7時〜8時半
月4千円、1回1000円
【個別指導対応】
ワード、エクセル、デジカメ、
画像処理、ホームページ作成等
連絡先：055-986-1301（勝俣）

2009三島商店街大学
〜三島の石油コンビナート進出を阻止した住民運動〜
見えない公害との闘い
1960年代の日本の海や河川は、工場が撒き散らす大気汚染に苦しんでいた。そんな時代に巻き起こった三島のコンビナート反対運動は国政を揺るがし、世界の有識者の注目を浴びたのだった。
開会日：平成22年1月26日（火）13:30〜15:00
講師：山本　保子
受講料：無料
会場：三島市本町7-30 Via701
お問い合わせ：みしま街づくり(株)
電話：055-976-0038

日清戦争と台湾の植民地化
（歴史の真実を学ぼう）
2010年1月19日（火）午後6時45分
会場 本町タワービル4F会議室
報告：台湾を訪問した三島の仲間
共催：みしま憲法9条の会
みしま中部憲法9条を守る会
三島市民講座
三島・田方憲法9条を守る会
975-2855（加土井）　973-1189（栗原）
971-3348（山口）　977-2016（木内）

みしま 源氏物語を読む会
と　き：毎月第1・3月曜日（月2回）
午前10時15分〜11時45分
ところ：三島商工会議所 会議室
内　容：『源氏物語』　使用テキスト角川文庫
会　費：月2000円（テキスト資料代・講師料等含む）
＊使用テキスト等は会で用意します。
問い合わせ：『源氏物語を読む会』055−972−4953

三島児童文学を語る会　367回
1月例会のお知らせ
日時：1月23日（土）
13時30分〜16時30分
場所：本町タワー4F 第3研修室
テキスト：「来年の春」
小出正吾作
（小出正吾全集③巻P221）
今こそ「読み聞かせ」が大事！
事務局　小嶋利信　堀川尚子　山口当子
連絡先　三島市中央町8−8
TEL　971-3348(山口)